



氏名 IN
所属 農学部 生命機能化学科
学年 2年
留学先 チェンマイ大学
留学期間 2024/09/01~2024/09/14

留学レポート Study Abroad Report

きっかけ

将来的には海外留学に長期で行きたいと考えており、まずは短期留学に参加してみようと思い応募しました。実際に現地の大学に通って、タイの生徒たちと交流する機会があることを知り、海外旅行では経験出来ないものが得られると考え、挑戦してみることにしました。

Sustainability School とは

このプログラムでは、2週間現地の大学に通いながら、バディたちと一緒にタイの文化を身近に体験し、学びます。様々な場所に訪れたりしました。タイで最も有名な寺院を巡ったり、伝統工芸体験を行ったりもしました。語学の他にも身につけたいと考え、今回、このプログラムを選びました。現地の方々と実際に話したり、バディたちと交流したりし、観光では経験できない発見や苦勞、喜びがありました。

チェンマイ

首都であるバンコクから離れ、タイの北部に位置する地域です。日本で例えるなら、バンコクが東京、チェンマイは京都といったイメージだそうです。チェンマイは、まちの至る所にとっても大きくてきれいなお寺があります。歴史的建造物と自然が多くあり、落ち着いていてきれいな街でした。また、チェンマイはカフェの街としても有名で、おしゃれなカフェがたくさんありました。

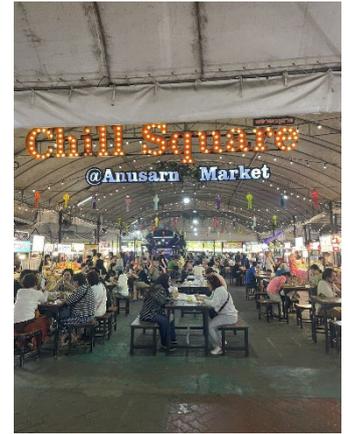


現地での生活

・一日の流れ

朝は、バスで大学まで送迎をしてくれました。午前中は、英語の授業を受けました。コミュニケーション

ヨンが中心の授業で、英語で自分の意見を述べる機会が多くありました。授業は、とてもカジュアルな雰囲気、生徒全員が気軽に自分の考えを言い合い、興味関心がわくととても楽しい授業でした。午後は、主に野外のアクティビティがありました。この活動では、様々な場所にバディたちと一緒に訪れて、タイの文化について、英語で学びました。朝から一日を通して、タイの文化に触れる活動を行う時もありました。放課後は、バディとナイトマーケットへ行ったり、一緒にプログラムに参加していた仲間と夕食を食べに行ったりしました。このプログラム期間内、一日一日がとても濃い日々でした。



・食事



朝食は、滞在先のホテルで、昼食は学食で済ませることが多かったです。食堂は学校内にいくつもあり、きれいなカフェもありました。タイの食べ物は、日本食の食べ物に比べて辛いものが多かったです。一緒に参加した日本人学生や私自身もおなかを壊し、一日学校を休んだ日がありました。胃腸薬の持参は必須です。現地では、生野菜や水に

注意しました。ですがタイのご飯は安くておいしいものがいっぱいあります。屋台で売っているタイ料理やスムージーは何度食べても飽きません。

・環境

チェンマイは、自然も多くとても落ち着いた雰囲気です。ホテル周辺にショッピングモールがあり、薬局、スーパー、フードコートなどもありました。ホテル近くにあるコインランドリーで三日に一回くらいの頻度で洗濯をしました。道路は、バイクの交通量が多く、信号無視する人も多くいるため注意して歩きました。移動手段は、主に grab というアプリでタクシーを利用しました。



留学を経て

今回の二週間の留学を経て、様々なことへ興味関心を持つように変化したと感じました。バディと交流しているとき、日本の文化、歴史などについて質問されることが多々ありました。そのとき、すぐに質問に答えたり、自分の考えについて述べる事が出来なかったことがとても悔しく感じました。日本のことや他の国の文化のことについて、日頃からアンテナを張っておくことが大切だと感じました。

さらに、英語で会話するときの意識が変わったと思います。留学する前は、英語で会話をするとなると、間違いを恐れ、頭が真っ白になり何も言葉が出てこない状態でした。しかし、この二週間で、文法や発音の間違いを恐れることなく、英語で自分の意見を述べたり、コミュニケーションをとることが出来るようになったと感じました。

いろいろなことを知ろうとすること、自分の意見を持って主張することが重要であると学んだ二週間で、この経験は、様々なことに挑戦する糧になると感じます。